

## まちの安全とひとのウェルビーイング(健幸)

大阪市立大学のある住吉区を対象に、そこでの安全・安心とひとのウェルビーイングのあり方について議論する。特に、都市防災を科学的かつ文化論的にとらえながら、現代社会が共通して抱える課題である「コミュニティ再生」や「まちの活性化」、「地域産業振興」のあり方を展望したい。住吉区は1800年もの昔から開かれた居住地であり、そこでは多様な生活文化が息づくとともに、様々な災害も経験している。現在は、大阪市のなかでも有数の住宅地として営まれるものの、個々人の孤立、地域産業の衰退、防災対応など様々な地域の課題が顕在化している。まちの防災、コミュニティ防災を課題としながらも、人々の住まい方や文化、歴史を含めた広い視野から議論を展開する。

プログラム1：住吉大社見学（16：00～17：00）

プログラム2：シンポジウム（18：00～20：30）

### 住民の安全・安心とウェルビーイング

キャロライン・フィッツマン（メルボルン大学准教授）



専門と略歴：専門は都市地理学。都市のコミュニティ・健康・文化政策に継続的に携わり、都市における女性の安全政策の第一人者。1988年トロント大学大学院(修士)修了後、トロント市健康都市計画室ほかにて都市健康政策やコミュニティ政策など関与。2003年よりメルボルン大学、現在に至る。2003年、博士学位論文「場所に付着した夢-トロントのある近隣地区1975年～2002年における郊外からスラム、都市市街地への変遷」でカナダ地理学会最優秀賞(人類地理学部門)、著書「インクルーシブシティの構築：女性の安全と権利」でアメリカ地理学会賞(女性地理学研究部門)など受賞多数。

こども・障害者・高齢者などを含む多様な住民が安全で豊かな暮らしを実現する都市「インクルーシブシティ」の考え方や北米やオーストラリアなどでの国際的動向を概説する。



### 住吉大社のあらまし

高井道弘（住吉大社宮司）

住吉の地に生れ、当大社に40年近く奉務している。大阪発祥の地であり、1800年の歴史と伝統、篤い信仰を次代に継承し、大阪の人々の心の癒やし場としての役目を果たしたいと思っている。

1800余年の長い歴史をもつ住吉大社のあらましと、現代社会における住吉大社の意味についてご講話いただく。



### 住吉区の安全安心とコミュニティ再生の取り組み

吉田康人（大阪市住吉区長）

2012年8月より住吉区長に就任。住吉大社やあびこ観音を初めとする伝統・文化・歴史と日常生活との「つながり」が強く、昔と今が美しく「調和」した住吉区の素晴らしさを伸ばしながら、地域の様々な活動団体と区役所、民と官、人と地域との「和」が美しく輝くことをめざした、まちづくりを推進している。

大阪市の中で代表的な居住地域である住吉区について、住民生活における課題やこれらの取り組み、将来ビジョンについて報告する。



### 大空小学校での命を守る学習の実践

木村泰子（大阪市立南住吉大空小学校校長）

2006年4月に大阪市立南住吉大空小学校が開校以来、「地域の学校」として、一 みんながつくる みんなの学校 大空小 一を合言葉に、すべての子どもの学習権を保障する学校を「みんな」でつづけている。子どもにつける4つの力「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」。たった一つの約束「自分がされていやなことは人にしない 言わない」

大空小学校で実践している住民参加型の「命を守る学習」のねらいと内容、今後の展開について報告する。



### いのちラボ・ネットワークの構想とコミュニティ防災教育の取り組み

三田村宗樹（大阪市立大学大学院理学研究科教授）

1983年大阪市立大学大学院理学研究科地質学専攻修了、1983年川崎地質株式会社技術職、1985年大阪市立大学理学部助手、同講師、助教授、准教授を経て、2010年大阪市立大学大学院理学研究科教授。兵庫県南部地震以降、人工地盤に関わる液化化問題・宅地変形問題などについて検討をすすめているほか、一般向けの防災講演や小中高の学校での防災教育を多数実施している。

大阪市立大学が中心となって展開している「いのちラボ・ネットワーク」の構想と、それを基にして地元地域に展開しているコミュニティ防災教育の取り組みについて報告する。

### コーディネーター



森 一彦（大阪市立大学大学院生活科学研究科教授）

1982年豊橋技術科学大学大学院工学研究科建設工学専攻修了、1982年山下設計株式会社設計本部、1986年豊橋技術科学大学助手、1995年筑波技術短期大学助教授、1999年大阪市立大学助教授を経て、2005年同教授。専門は福祉環境デザイン学。泉北ニュータウン再生プロジェクトや大阪市立大学都市防災研究プロジェクトなど、地域におけるコミュニティデザインに取り組んでいる。